

予 算 要 求 資 料

令和8年度当初予算

支出科目 款：農林水産業費 項：農業費 目：農業大学校費

事 業 名 農業機械整備費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

農政部 農業大学校 総務課 電話番号：0574-62-1226

E-mail : c24405@pref.gifu.lg.jp

1 事 業 費 7,918 千円 (前年度予算額： 1,968 千円)

<財源内訳>

区分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使 用 料 手数料	財 産 収 入	寄 附 金	そ の 他	県 債	一 財 源
前年度	1,968	0	0	0	0	0	0	0	1,968
要求額	7,918	0	0	0	0	0	0	0	7,918
決定額									

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨（現状と課題）

学生のプロジェクト学習、農場管理に使用する農業機械が老朽化しているため、備品の更新を行う。

(2) 事業内容

①チッパーシュレッダーの更新

果樹専攻での実習作業（プロジェクト学習）において、桃、梨、柿の剪定作業で排出により処分に困る大量の剪定枝を処分するため、チッパーシュレッダー（剪定枝破碎機）を使用し、減容化、堆肥化を図っている。

配置されているチッパーシュレッダーは平成16年度の導入以降、21年が経過し経年劣化が進み、交換部品のメーカー保管期限が渡過しているため、部品交換による修繕は困難な状態であることから早急に更新する必要がある。

◎希望購入機種：チッパーシュレッダー（ゼノアSR3100）1台 4,343千円

現行機種：チッパーシュレッダー（小松ゼノアSR200）

※平成16年度導入、金額2,373,000円、21年経過 耐用年数5年

②スキッドステアローダーの更新

畜産専攻での実習作業において、飼養牛の排泄物の収集や運搬、堆肥舎内での堆肥の移動や積み直し、堆肥散布機へ積載をスキッドステアローダーを使用して作業を実施。

配置されているスキッドステアローダーは令和元年度の導入以降、令和6年度から深刻な故障（1ステアリングレバーが故障しており、手を離すと自動的に前進。2シートが故障し本来の乗員の身長に応じてペダルまでの距離を調整する役割が機能しない。）が発生しており、事故に繋がる危険性が高く、早急に更新する必要がある。

◎希望購入機種：スキッドステアローダー（TCM705-2）1台 3,575千円

現行機種：スキッドステアローダー（TCM705-2）

※令和元年度導入、金額2,592,000円、7年経過 耐用年数7年

(3) 県負担・補助率の考え方

県10/10

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
備品購入費	7,918	チッパーシュレッダー、スキッドステアローダー
合計	7,918	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

- ・「清流の国ぎふ」創生総合戦略
 - 3 地域にあふれる魅力と活力づくり
 - (3) 農林畜水産業の活性化
 - ①農林畜水産業を支える人材の育成・確保
- ・「ぎふ農業活性化基本計画（仮称・令和8年3月策定予定）」

(2) 国・他県の状況

- ・他県においても必要に応じて農業機械を更新している。

(3) 後年度の財政負担

- ・機械の耐用年数等に併せて今後も定期的に更新をしていく予定。

(4) 事業主体及びその妥当性

- ・県が実施

事業評価調書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

- ・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

農業大学校における新たなカリキュラムの実施等を通じ自家就農・雇用就農で新たな担い手を目指す学生の増加を図り、ひいては県の新規就農者の育成確保に資する。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R1)	R6年度 実績	R7年度 目標	R8年度 目標	終期目標 (R8)	R6達成率
①入学者数	28人	27人/30人	30人	30人	30人	90%
②卒業者数	25人 (H30入学者)	20人/30人 (R5入学者)	26人 (R6入学者)	27人 (R7入学者)	30人	66%

○指標を設定することができない場合の理由

--

（これまでの取組内容と成果）

令和 4 年 度	・取組内容と成果を記載してください。 農業改良助長法に基づき、新規就農者の育成・農業技術者の育成に向け、教育計画に基づく講義や農業実習等の実践教育を実施した。 なお、卒業生21人は、県内に15人が就農し、農業団体、農業系企業に3人が就職した。（県外への就農就職等は6人）
	指標② 目標： 30人 実績： 21人 達成率： 70 %
令和 5 年 度	・取組内容と成果を記載してください。 農業改良助長法に基づき、新規就農者の育成・農業技術者の育成に向け、教育計画に基づく講義や農業実習等の実践教育を実施した。 なお、卒業生25人は、県内に19人が就農し、農業団体、農業系企業に5人が就職した。（県外への就農就職等は6人）
	指標② 目標： 30人 実績： 25人 達成率： 83 %
令和 6 年 度	・取組内容と成果を記載してください。 農業改良助長法に基づき、新規就農者の育成・農業技術者の育成に向け、教育計画に基づく講義や農業実習等の実践教育を実施した。 なお、卒業生20人は、県内に2人が就農し、農業団体、農業系企業に4人が就職した。（県外への就農就職等は11人）
	指標② 目標： 30人 実績： 20人 達成率： 66 %

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断)

3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない

(評価) 2	農業大学校の古い施設や設備を整備していくことで、円滑に学校運営を進めることができる。
・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか)	
3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない	
(評価) 2	老朽化施設を整備することで、学生のプロジェクト研究をより効果的、効率的に実施することができ、一定の成果が認められる。
・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか)	
2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている	
(評価) 2	施設整備の優先度、有効性について施設ごとに検討し、計画的に整備を進めている。

(今後の課題)

・事業が直面する課題や改善が必要な事項

(課題) 明日の岐阜県農業を担う農業者を育成するため入学者の確保及び就農に向けた取り組みの一層の強化。

(改善が必要な事項) 学生に安全かつ快適な環境の中で、知識と技術を習得させるため、施設・設備の計画的な再整備が必要。

(次年度の方向性)

・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか

入学者の確保のため農業高校等を訪問し、教育方針及び卒業生の進路情報を提供し、農業大学校への学生募集の推進を引き継ぎ行う。

また、多様な就農者の確保に向け、市町村、農林事務所、農業士会、農業団体等との連携を強化し、新規就農希望者の受け入れ支援体制整備を図る。

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課	【〇〇課】
組み合わせて実施する理由 や期待する効果 など	